

普及指導員調査研究報告書

課題名：オリジナルリンドウの生産拡大

農林総合技術センター企画戦略部 技術革新普及グループ 担当者氏名：松井 香織

＜活動事例の要旨＞

現地の栽培状況を共有するとともに、市場価格の安定に向け、出荷予測システム等を活用し、関係機関と連携して市場動向に対応した出荷体制を整理した。生育状況や出荷予定時期を共有する体制ができ、産地全体の出荷本数増加につながった

1 普及活動の課題・目標

着実に作付を拡大するため、品種特性に応じた栽培技術実証、生産者・JA等、関係機関の連携による計画出荷の実現に向けた出荷体制の整備、各集落営農法人等の課題に対応したきめ細かな作付け推進等の取組を一体的に進める。

そこで、技術確立を進めるとともに、新品種の地域適応性の把握など、産地の特性を活かしたリンドウ栽培を推進する。あわせて、出荷情報等の産地情報の発信力強化と情報活用体制、新たな出荷体制の検討など、計画出荷を進めていく。

2 普及活動の内容

(1) 品種特性に応じた栽培状況の検討

西京シリーズの品種数が増えたことにあわせて、品種ごとの栽培管理を検討。特に、新たに販売を開始した「西京の瑞雲」については、地域での生育状況を確認した。また、近年問題になってきた病害虫に対応するため防除暦を更新した。

(2) 計画出荷の実現に向けた出荷体制の整理

マイクロソフトチームズを活用し、各産地の生育状況および出荷予測情報を共有。情報は定期的に更新し、最新情報が把握できる体制づくりを進め、適期管理を確認した。出荷予測情報については、農業部に限らず、農業振興課から各関係機関へ情報を共有し、安定出荷体制に向けた検討材料とした。

(3) 集落営農法人等への推進

リンドウ栽培を紹介した推進チラシを更新し、集落営農法人等への働きかけの資とした。

3 普及活動の成果

(1) 品種特性に応じた栽培状況の検討

各地域の情報をチームズで共有し、品種ごとの生育状況や病害虫の発生状況等を共有。今後必要な管理の確認や出荷予測の更新等に活用した。「西京の瑞雲」の出荷時期の確認や防除暦の更新など行うことができた。

令和5年度の出荷実績は、市場と直売所等を合わせて377,477本。うち西京シリーズは257,243本であった。年度当初の出荷予測はやや下回るものの、前年よりは出荷本数は増加した。1株あたりの平均収穫本数は4.7本と目標は達成することができた。次年度以降の指導につなげていくため、より詳細に分析する必要がある。

(2) 計画出荷の実現に向けた出荷体制の整理

生育状況にあわせて出荷予測を更新し、関係機関と共有することで、JA 山口県による共選共販体制の実施や共販出荷の分荷調整など、計画出荷を行う体制整備につながることができた。引き続き、生産者に情報を返し、市場動向を反映できる産地体制へと検討していくことが必要。

(3) 集落営農法人等への推進

推進チラシや経営指標等の資料を作成し、推進体制を整備することはできた。新たな栽培者確保に向けては、現状の課題整理など、これまでの対応を踏まえた対策の検討が必要と考えられる。

4 今後の普及活動に向けて

情報共有体制を活用した適期管理の確認などの技術対策に取り組んだが、リンドウ産地の拡大に結びつくには至らなかった。

今後は、地域の課題整理などの現状分析を行い、課題解決のための実証ほの設置などの具体的なモデル事例を設置して、産地への波及効果を図ることが必要と考える。